

立野交流施設（立野駅）



■西側に広がる立野火口瀬を背に施設全体を見る
立野火口瀬の谷と外輪山の稜線をイメージした
切妻屋根と南側に跳ね上がった大庇

■計画コンセプト

「水と風、人と情報のターミナル」を実現する『阿蘇の風かおる、広いテラスがある交流ステーション』

南阿蘇村・阿蘇の玄関口として、熊本地震からの創造的復興として、立野地区のコミュニティ再生や南阿蘇鉄道再生に寄与し、賑わいの創出を目的とした施設である。

大自然豊かな阿蘇外輪山の唯一の切れ目である立野火口瀬に位置し、爽やかな風を感じられる阿蘇の玄関口となる施設である。県産木材を使い、可能な限り木造、木質化を図り、木のかおりのなかで、『阿蘇の風かおる、広いテラスがある交流ステーション』として、国内外からの来訪者と地域の人々の多様な交流が促進される気持ちの良い空間を目指した。

木あらわしの屋根の下に、駅の機能を確保しながら、様々なイベントが開催可能なできるだけ「広いテラス」と「駅前広場」を計画した。「広いテラス」は地域活動拠点としてマルシェ、ポップアップ店舗のカフェやビアガーデン、演奏会、夜会など様々な交流イベントが開催できる。「駅前広場」はテラスだけではできない大きなイベントやキッチンカーイベントなどが開催できる。イベントは南阿蘇鉄道のトロッコ列車運行に合わせて開催したり、沿線駅や終着駅の高森駅のイベントと協働することで、集客効果において相乗効果を生み出せる。

そして、住民参加型のイベントにより地域が元気になることで、地域活性と定住促進、熊本地震で流出した住民の帰還や新規流入に寄与し創造的復興につながる。令和5年7月15日に南阿蘇鉄道全線復旧の記念イベントが開催され多くの人で賑わった。

■景観デザイン～周囲の景色や行きかう人と様々な列車を観るための多くの視点場をデザイン～

「広いテラス」からの景観は、東から南側は阿蘇五岳方向と北向山の眺望と立野駅ホームに入ってくる南阿蘇鉄道の列車を観ることができ、西側は立野火口瀬の先にある熊本市内、有明海方向の眺望と夕陽や、ＪＲ九州のいろいろな列車と南阿蘇鉄道の待機列車を観ることができ、来訪者の撮影スポットになるよう、多くの視点場を計画した。視点場を介し、交流が促進されることを期待した。多くの視点場を計画したことで、阿蘇の景観や列車を撮影する人々によりSNS等で発信されている。各所にベンチを設置し、人が列車やバスを待ったり滞留することで、人がいるまちの景色をつくっている。



■駅前広場から見る北側全景



■駅前広場とつながる正面出入口と大階段



■立野溪谷の柱状節理の六角形をモチーフにして各所をデザインしている



■「駅前広場」も使用して開催したイベント



■2階交流テラスが大学の人でにぎわう様子



■2階待合室のテーブルで作業する人やベンチに腰掛ける人



■駅前広場のイベントステージが見えるエントランスの大階段に腰掛ける人

■南阿蘇鉄道全線復旧の記念イベントで賑わった様子



■南阿蘇鉄道の列車が入ってくるのを2階交流テラスから眺める人



■ＪＲ立野駅に入ってくる列車や立野火口瀬、阿蘇外輪山の景観を眺める人



■ＪＲ立野駅と立野火口瀬



■駅本屋と観光で人気のトロッコ列車



■南阿蘇鉄道ホームで列車を待つ人と2階の乗降場から列車や景観を眺める人



■乗降場とスロープから見えるワンピースとのコラボ列車



■プラットフォームから乗降場スロープと交流施設を見る



■多くの視点場があり視線がぬける開放的な交流テラス

■南阿蘇鉄道とＪＲの様々な列車と阿蘇の景色を、好きな場所から眺めることができる、多くの視点場乗降場と列車、プラットフォームの距離が近く、手を振りあったりして、コミュニケーションができる



■北東側からの夕景



■出入口夕景



■南側（ＪＲ側）夕景



■交流テラスの夕景

■木のあたたかみが効果的な夕景